

精神障害者治療支援技法論

[講義] 選択 30時間 2単位

《担当者名》○向谷地生良 [ikuyoshi@hoku-iryuu.ac.jp]
八木こずえ [co-yagi0913@hoku-iryuu.ac.jp]

【概要】

精神障害者のリカバリーを促進するリハビリテーション技法と心理教育、リラクゼーション技法、家族に関する理論など精神科における代表的な治療技法について学ぶ。

【学修目標】

1. リカバリー概念を基盤とする支援技法と思想について理解し、展開方法や実践の指針を学ぶ
2. 精神科における代表的な治療技法の理論的基盤を理解するとともに、演習を通じて体験的に修得する。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---------|---|--|------------------|
| 1 | リカバリー概念に基づくリハビリテーション技法 1)リカバリー概念の意義と位置づけ | 精神障害者リハビリテーションの歴史の概観からリカバリー概念の意義をストレングス、エンパワメント理論との関連を含めて学ぶ | 向谷地 |
| 2 | 2)イギリスのリカバリーカレッジの実践における支援技法 | 「リカバリーカレッジ」におけるリカバリー概念と人材養成の方法など、推進のためのシステム、具体的展開から治療技法のあり方を学ぶ | 向谷地 |
| 3) | 3)フィンランドのオープンダイアローグの支援技法 | オープンダイアローグの実践と思想から、開かれた対話の意義、危機介入における治療的対話を学ぶ | 向谷地 |
| 4 | | | |
| 5) | 4)当事者研究の支援技法 | 苦労の意味を肯定的且つ研究的に捉え、当事者の主体的を取り戻す自己治療のツールとしての当事者研究の思想と当事者の成長、展開方法の実際を学ぶ | 向谷地 |
| 6 | | | |
| 7) | 5)事例による演習 | 実際の当事者研究に参加し、事例を通じて展開方法を体験的に学び、支援者がファシリテーターとして成長できるように相互にスーパービジョンを行う。 | 向谷地 |
| 8 | SSTや認知行動療法をベースにした当事者研究の支援方法と支援者の支援方法を学ぶ | レポート提出「当事者研究とそれを支えるファシリテーターの役割について」A4枚3000文字以内 | |
| 9 | リラクゼーション技法 1)リラクゼーション技法の理論的基盤 | ストレス反応とリラクゼーション反応、効果や限界、ニーズに応じた技法の選択について学ぶ | 八木 清水陽平（特別講師） |
| 10 | リラクゼーション技法 2)リラクゼーションの演習 | 呼吸法、漸進的筋弛緩法、イメージ法、瞑想法を演習にて学び、ファシリテーターを体験する。 | 八木 清水陽平（特別講師） |
| 11) | 心理教育による援助技法 | 個人や集団、疾患や病態別の心理教育の実践の指針について学ぶ。看護体験や文献から心理教育の実践例の展開の指針や課題を考察しプレゼンテーションする。 | 八木 清水陽平（特別講師） |
| 12 | 1)対象別の展開方法 | | |
| 13 | 家族への支援技法 1)家族療法の歴史と理論 | 家族療法の発展の流れと主な理論家の治療技法を理解し、システムズアプローチを主とする家族への支援の方法を学ぶ | 向谷地 |
| 14) | 2)事例による支援の実際 | 事例から多職種連携によるケア困難ケースの家族支援の実際について学ぶ | 八木 石川祐子（特別講師） |
| 15 | | | |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（30%）、討議への参加（30%）、課題レポート（40%）で評価する。

【教科書】

指定しない。

随時、資料を配布する。

【参考書】

1. W. アンソニー : 精神科リハビリテーション. 三輪書店. 2012.
2. 向谷地生良: 技法以前 べてるの家のつくりかた. 医学書院. 2009
3. シリーズ「精神医学の科学哲学」第三巻「精神医学と当事者」石原孝二・河野哲也・向谷地生良編「精神医学と当事者研究」. 東京大学出版. 2016 .
4. 荒川唱子・小坂橋喜久代編、リラクゼーション技法、医学書院、2007.
5. 南裕子監修、精神科看護の理論と実践、ヌーベルヒロカワ、2013
6. 宇佐美しおり・野末聖香編集：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会. 2009.
7. 東豊：家族療法の秘訣. 日本評論社 . 家族療法的カウンセリング. 2014.

【学修の準備】

支援技法の背景にある思想や理論を理解することが重要である。関連文献や情報を主体的に学習し積極的に議論を深める。

演習の前後では支援技法の修得を目指して講義や演習の復習を行う。

当事者研究の演習後にはレポートにて自己課題や修得した内容をまとめる。

心理教育については課題のプレゼンテーションを行う。